

戦前の規範としての女性語—昭和15年台湾刊  
『潮州郡国語講習所用 話方読方教授細目』  
「男子教材」「女子教材」を資料として—

園 田 博 文

地域教育文化学部 地域教育文化学科

山形大学紀要（教育科学）第17巻第3号別刷  
令和2年（2020）2月

## 戦前の規範としての女性語—昭和15年台湾刊 『潮州郡国語講習所用 話方読方教授細目』 「男子教材」「女子教材」を資料として—

園田 博文

地域教育文化学部 地域教育文化学科

(令和元年10月1日受理)

### 要 旨

昭和15年に台湾で刊行された『潮州郡国語講習所用 話方読方教授細目』という資料を用いた研究である。この資料には、「男子教材」とこれに対応する「女子教材」があり、完全に同じ文脈で比較対照できるという特徴がある。たとえば、形容詞丁寧表現については、「男子教材」が「トホイデス」とするところを「女子教材」では「トホウゴザイマス」のように現れる。つまり、「女子教材」が「男子教材」に比べて、より丁寧な表現を用いていることを明らかにした。これは、当時の規範の一種で、台湾に限らず内地とも関連する。内地においても、男女の会話例を示した資料は多数見かけるが、男女の言葉を同じ文脈で明確に対照できる資料はあまり見られないため、本稿で用いた資料は貴重なものである。本稿の成果は二つである。一つ目は、日本語教育史上の成果で、特に言葉の男女差について台湾で日本語がどのように教えられたかを明らかにした点である。二つ目は、日本語史上の成果で、昭和戦前期における女性語の規範を明確に示せた点にある。

### 1 はじめに

佐竹(2012)によると、『国定読本』第5期(昭和16年使用開始)で、「女の敬体使用と男の常態使用が対比的に示される教材もそれまでより大幅に増えた」とし、男子と女子の会話の例を引用している。教師用指導書の例も示しながら、「〈女性語〉の丁寧さ規範の教授が強く意識されていることがわかる」という。森山(2019)もこの成果を踏まえ、論を深めている。

本稿は、昭和15年台湾刊『潮州郡国語講習所用 話方読方教授細目』を資料として、言葉の男女差について考察するものである。この資料は、男女の会話という形ではなく、上段に「男子教材」、下段にこれに対応する「女子教材」を明示的に示す資料である。同じ文脈で、「男子教材」と「女子教材」が対照されている点や昭和16年に内地の『国定読本』第5期に変わるよりも前の昭和15年<sup>1</sup>に台湾で作られた点、国語講習所で教えるためのものなので規範性が認められる点が注目される。

---

<sup>1</sup> 講習生が使用する『新国語教本』は昭和14(1939)年に改訂出版された。

## 2 『潮州郡国語講習所用 話方読方教授細目』について

### 2. 1 書誌

書誌について挙げると以下のとおりである。

書名：『潮州郡国語講習所用 話方読方教授細目』（以下『教授細目』）

印刷年月日：昭和15（1940）年2月13日印刷

発行年月日：昭和15（1940）年3月4日発行（修正あり）

価格：非売品

発行者：潮州郡民風作典会

（代表者）稲田廉吾

印刷者：王春田（潮州郡潮州街潮州）

印刷所：潮州印刷所（潮州郡潮州街潮州）

利用：国立台湾図書館蔵本

### 2. 2 緒言

緒言は以下のとおりである。

〈緒言〉

- 一、本細目は国語講習所第一期生の国語教授参考用に供せんがために編纂したものである。
- 一、本細目は台湾教育会編纂の新国語教本卷一に立脚し一年分の教授時間三百十時間を以て初歩の国語教授を為すものと予定しその中新国語教本の教材の取扱を百十二時間とし、残りの時間は本郡編纂の話方教本の話方教材以て補充した。
- 一、本細目に採用した話方教材は国語を通して特に国民性の涵養、知徳の啓培、生活の指導、趣味の養成に留意し、本島社会の陋習を改め、以て、皇民化を促進すべく選択したつもりである。
- 一、本細目の本文は上段より週、配當時数、男子教材、女子教材、主眼点、指導上の注意の順序に分段し、男子教材は男子国語講習所用、女子教材は女子国語講習所用であり、主眼点の段は目的、新語句、発音の誤り易い語句、新出文字を記載してある。  
指導上の注意段には指導上注意すべき事項、教具、其他を表示してある。
- 一、本細目に現はれた話方教材は農村である本部を中心として実用を主とし、日常生活に必須にして且卑近なものであり、本郡講習生の素質に適したものを採録し其の程度を考慮して配当したものである。
- 一、一週に復習の時間を二時間置いたのは主としてその週に授けた話方を練習させる目的である。
- 一、毎時間に配当せる教材は該時間中に習得せしめむとする中心点を示したものであるから生徒の学力程度の実状に鑑みて常に適当に加除訂正をしてもらひたい。

昭和十五年二月<sup>2</sup>日

著者識（1～2頁）

<sup>2</sup> 原文空白

緒言に続いて、「細目編纂ノ態度」が書かれている。様々な点が見られるが、本稿の目的である「男女差」に関わる部分のみに触れ、「発音」については稿を改めて論ずることにする。

「教材論 教材の選択」には、「性別による語句、措置に留意して選ぶこと。」(5頁)という項目が見られる。「方法論 一般教授」には、「指導法は該講習生の年齢、国語程度、環境、性別等の種々な特殊事情を充分考慮した上当講習所に最適と思はれる方法を用ひたい。」(5頁)という項目が見られる。

### 3 「男子教材」と「女子教材」から見た女性語

『教授細目』の本文は、「緒言」に書かれたとおり、「上段より過、配當時数、男子教材、女子教材、主眼点、指導上の注意の順序に分段」されている。「男子教材は男子国語講習所用、女子教材は女子国語講習所用」であるが、全ての本文が「男子教材」に書かれ、これに対応する形で「女子教材」が記されている。

本稿では、「男子教材」の下の段の「女子教材」の欄に「男子教材」に対応する形で記された本文を調査対象とした。「例文」である場合、「甲乙の会話」である場合、教師や巡査との会話である場合のみつに分類できる。このうち、教師や巡査の発話部分は例数に含めず、別に数えた。

用例を挙げる際は「男子教材→女子教材」のように「男子教材」と「女子教材」が対応していることが分かるように示した。

「女子教材」欄の中には「同上」とのみ記し、「男子教材」と同じであることが示された箇所がある。何故「同上」としたかは、今後詳細に調べる必要があるかと思うが、本稿では調査対象には含まなかった。

以下、項目に分けて具体的な用例を挙げながら考察する。

#### 3. 1 形容詞丁寧表現に関わるもの

形容詞丁寧表現については、園田(2019a)でも明治から昭和20年までの状況について触れた。揚妻(2012)によると『国光』にはチカイデスのような例が多く見られるという。これは内地の『国定読本』では規範的には認められなかった形であるが、戦後許容する旨言及のあったものである。『教授細目』は以下に見るとおり、「男子教材」は「チカイ」「チカイデス」、「女子教材」は「チカイデス」「チカウゴザイマス」を使っている。

##### 3. 1. 1 「チカイ→チカウゴザイマス」の類

普通形と敬意の高い丁寧表現が対照されている場合である。以下のような例が2例見られた。

- ① 屏東ハチカイ、(男子教材、28頁)  
屏東ハチカウゴザイマス。(女子教材、28頁)
- ② 台北ハトホイ、(男子教材、28頁)  
台北ハトハウゴザイマス。(女子教材、28頁)

## 3. 1. 1 「寒クナイ→寒ウゴザイマセン」の類

普通形と敬意の高い丁寧表現が対照されている場合で、否定が関わるものである。以下の例が1例見られた。

- ③ 甲「ソレデ寒クナイノ。」乙「イヤ、仕事ヲシテキマスカラ。」(男子教材、120頁)  
 甲「ソレデ寒ウゴザイマセンノ。」乙「イ、エ、仕事ヲシテキマスカラ。」(女子教材、120頁)

## 3. 1. 2 「トホイデス→トハウゴザイマス」の類

同じく形容詞丁寧表現であるが、敬意の程度に差異のあるものである。以下のように3例見られた。

- ④ 甲「学校カラ大分トホイデスカ。」乙「イ、エ、四百米グラキシカハナレテキマセン。」(男子教材、92頁)  
 甲「学校カラ大分トハウゴザイマスカ。」乙「イ、エ、一軒位シカハナレテキマセン。」(女子教材、92頁)  
 ⑤ 乙「マンゴーハ。」甲「アレモオイシイデスネ。」(男子教材、116頁)  
 乙「マンゴーハ。」甲「アレモオイシウゴザイマスネ。」(女子教材、116頁)  
 ⑥ 甲「大ヘン寒イデスネ。」乙「ホントニ体身ガフルヘマスネ。」(男子教材、120頁)  
 甲「大ヘン寒ウゴザイマスネ。」乙「ホントニ身体ガフルヘマスネ。」(女子教材、120頁)

## 3. 1. 3 「オソイデス→オソイデス」の類

同じ程度の形容詞丁寧表現が使われている例が2例見られた。このうち1例は、後続の終助詞等が異なっている。例を見てみよう。

- ⑦ 甲「モウオソイデスヨ。」乙「サウデスネ。」(男子教材、55頁)  
 甲「モウオソイデスヨ」乙「サヤウデゴザイマスネ。」(女子教材、55頁)  
 ⑧ 甲「コノ豚ハ太ソウ大キイデスガ、何種デスカ。」乙「バークシャーデス。」(男子教材、115頁)  
 甲「コノ豚ハタイソウ大キイデスワネ。何種デゴザイマスカ。」乙「バークシャーデゴザイマス。」(女子教材、115頁)

## 3. 1. 4 「多イカラ→多インデスモノ」の類

普通形に「カラ」が接続した例と「ンデス+モノ」が対照されている。

- ⑨ 甲「ドウシテ。」乙「夏ハクダモノガ多イカラ」(男子教材、108頁)  
 甲「ドウシテデスカ。」乙「夏ハ果物ガ多インデスモノ。」(女子教材、108頁)

## 3. 2 「男子教材」に「デス」「デセウ」が関わるもの

「男子教材」に形容詞丁寧表現に関わるもの以外の「デス<sup>3</sup>」が現れた例は205例である。

<sup>3</sup> 「デス」は全て調べた。「デシタ」等は異なった形がある場合のみ調べた。

<sup>4</sup> 「デゴサイマス」1例を含む。

そのうち、「女子教材」で「デゴザイマス」となっているものが196例<sup>4</sup>、「デゴザイマセウ」が1例、同じく「デス」が8例であった。

- ⑩ 甲「ソノ方ハアナタノ兄弟デスカ。」乙「イ、エ、私ノ友達デス。」(男子教材、45頁)  
甲「ソノ方ハアナタノ姉妹デゴザイマスカ。」乙「イ、エ、私の友達デゴザイマス。」(女子教材、45頁)
- ⑪ 甲「オ二人トモオ達者デスカ」乙「オカゲサマデ二人トモ丈夫デス。」(男子教材、84頁)  
甲「オ二人トモオ達者デゴザイマセウネ。」乙「オカゲサマデ二人トモ丈夫デゴザイマス。」(女子教材、84頁)
- ⑫ 甲「ア、モウ鐘ガナツテキマスヨ。」乙「ホントウデスネ。イソギマセウ。」(男子教材、123頁)  
甲「ア、鐘ガナツテキマスヨ。」乙「ホントデスネ。急ギマセウ。」(女子教材、123頁)

「男子教材」に「デセウ」が現れた例は11例である。このうち、「女子教材」で「デゴザイマセウ」が4例、「マセウ」が2例、同じく「デセウ」が5例であった。

- ⑬ 甲「庄ノ協議会ハイツヒラカレマスカ。」乙「二月ノ中頃デセウ。」(男子教材、113頁)  
甲「庄ノ協議会ハイツヒラカレマスカ。」乙「二月ノ中頃デゴザイマセウ。」(女子教材、113頁)
- ⑭ 甲「明日モヨクフルデセウネ」乙「イ、エ、モウ明日ハ天気ニナルデセウ。」(男子教材、54頁)  
甲「明日モ又降りマセウネ」乙「イ、エ、モウ明日ハ天気ニナリマセウ。」(女子教材、54頁)
- ⑮ 甲「ドウシタノデスカ。」乙「カゼヲヒイタノデセウ。」(男子教材、82頁)  
甲「ドウシタノデゴザイマスカ。」乙「カゼヲヒイタノデセウ。」(女子教材、82頁)
- その他「デス」が関わる例は2例であった。1例は⑧の「ドウシテ」と「ドウシテデスカ」である。もう1例は以下のものである。
- ⑯ 甲「家ノ鶏ガキテキマセンカ。」乙「イ、エ。」(男子教材、95頁)  
甲「ウチノ鶏ガキテキマセンデセウカ。」乙「イ、エ。」(女子教材、95頁)

### 3. 3 「男子教材」に「アリマス」「アリマセン」が関わるもの

「男子教材」に「アリマス」が現れた例が47例である。そのうち「女子教材」が「ゴザイマス」であるもの39例、「居ラレマス」であるもの1例、同じく「アリマス」であるもの7例であった。

- ⑰ 山ニハ神社ガアリマス。(男子教材、25頁)  
山ニハ神社ガゴザイマス。(女子教材、25頁)
- ⑱ 甲「アナタハ父母ガアリマスカ。」乙「ハイ、アリマス。」甲「オヂイサンモオバアサンモアリマスカ。」(男子教材、110頁)  
甲「アナタハ父母ガゴザイマスカ。」乙「ハイ、ゴザイマス。」甲「オヂイサンモオバアサンモ居ラレマスカ。」(女子教材、110頁)
- ⑲ 甲「コノツクエノ長サハ何メートルアリマスカ。」乙「ハイニメートルグラキアリマス。」

(男子教材、62頁)

甲「コノツクエノ長サハ何メートル位アリマスカ。」乙「ハイ、ニメートル位アリマス。」  
(女子教材、62頁)

「男子教材」に「アリマセン」が1例現れており、これには「女子教材」の「ゴザイマセン」が対応している。

- ② 乙「シカシ暑サニハコマリマセンカ。」乙「アツイケレドモ時々タ立ガフルデハアリマセンカ。」(男子教材、108頁)

乙「シカシ暑サニハコマリマセンカ。」乙「暑イケレドモトキドキタ立ガフルデハゴザイマセンカ。」(女子教材、108頁)

### 3. 4 「男子教材」に「キマス」「キマセン」が関わるもの

「男子教材」での「キマス」が「女子教材」で「ゴザイマス」となっている例が2例見られた。「男子教材」「女子教材」同様であるものは23例見られた。「デス」や「アリマス」に比べ、「男子教材」「女子教材」ともに同じである割合が高い。

「男子教材」「女子教材」ともに「キマセン」の例も2例見られた。

- ② 甲「コノ列ニ生徒ガ何人キマスカ。」乙「ハイ、一人、二人、三人、四人、五人、六人、七人、八人、九人、十人、十一人、十二人キマス。」(男子教材、40頁)

甲「コノ列ニ生徒ガ何人ゴザイマスカ。」乙「ハイ、一人、二人、三人、四人、五人、六人、七人、八人、九人、十人、十一人、十二人ゴザイマス。」(女子教材、40頁)

- ② ココニ女ノ子ガキマス。(男子教材、34頁)

ココニ女ノ子ガキマス。(女子教材、34頁)

- ③ 甲「山崎サンハモウイキマシタカ。」乙「イ、エ、頭ガ痛イトイツテネテキマス。」(男子教材、82頁)

甲「八重子サンハモウイキマシタカ。」乙「イ、エ、頭ガ痛イトイツテネテキマスヨ。」(女子教材、82頁)

### 3. 5 「女子教材」により高い丁寧さが認められるもの (3. 1～3. 4を除く)

#### 3. 5. 1 「男子教材」は尊敬語ではないが「女子教材」で尊敬語が使われるもの

以下の表現が1例ずつ現れていた。

「行キマスカ→イラツシヤイマスカ」、「行キマシタカ→イラツシヤイマシタカ」、「イヒマシタ→オツシヤイマシタ」、「オハナシシテ<sup>5</sup>→オツシヤツテ」、「ツカレタ→オツキニナツタ」、「カヘリマスカ→オカヘリニナリマスカ」、「入レマシタカ→入レラレマシタカ」

例を見てみよう。

- ② 甲「何時カヘリマスカ。」乙「七日ニカヘルツモリデス」(男子教材、109頁)

甲「何時オカヘリニナリマスカ。」乙「七日ニカヘルツモリデゴザイマス。」(女子教材、109頁)

<sup>5</sup> 敬語の誤りのような例別にあり。ただ、本例(②)は誤りではない。

## 3. 5. 2 「女子教材」がより丁寧な別の表現等になっているもの

以下の表現が1例ずつ現れていた。

「ハイ。→ハイ、シヤウチイタシマシタ」、「アリガタウ→アリガタウゴザイマス」、「ナサイ→ナサイマセ」、「イラツシヤイ→イラツシヤイマセ」、「カケナサイ→カケテ下サイ」、「ヤスミマス→休ミマセウ」、「行キマス→行カウト思ヒマス」、「イタシマス→サシテイタダキマス」、「クダサイ→お願い致シマス」

例を見てみよう。

- ㊤ 乙「今晚ハヤスミマスカラ先生ニオハナシテ下サイ。」甲「ハイ。」(男子教材、82頁)  
乙「今晚ハ休ミマスカラ先生ニオツシヤツテ下サイネ。」甲「ハイ、シヤウチイタシマシタ。」(女子教材、82頁)
- ㊦ 乙「風邪デス。」甲「オダイジニナサイ。」(男子教材、89頁)  
乙「風邪デゴザイマス」甲「オ大事ニナサイマセ。」(女子教材、89頁)
- ㊧ 甲「私が雑巾ヲカケマセウ。」乙「サウデスカ。先生ノツクエカラ先ニカケナサイ。」(男子教材、91頁)  
甲「私が雑巾ヲカケマセウ。」乙「サウデスカ。先生ノツクエカラ先ニカケテ下サイ。」(女子教材、91頁)
- ㊨ 甲「田中サン、講習所ニイキマセウ。」乙「今日ハ大ヘンイソガシイカラヤスミマス。」(男子教材、57頁)  
甲「マリ子サン、講習所ニ参リマセウ。」乙「今日ハ大ヘンイソガシイカラ休ミマセウ。」(女子教材、57頁)
- ㊩ 甲「アナタハ何時台南ニ行キマスカ。」乙「今晚ノ終列車デ行キマス」(男子教材、109頁)  
甲「アナタハ何時台南ニイラツシヤイマスカ。」乙「今晚ノ終列車デ行カウト思ヒマス。」(女子教材、109頁)
- ㊪ 甲「ゼヒオクサンモサソツテオイデクダサイ。」乙「ハイ、キツトオジヤマイタシマス。」(男子教材、86頁)  
甲「ゼヒ旦那サンモサソツテオイデ下サイ。」乙「ハイ、キツトオジヤマサシテイタダキマス。」(女子教材、86頁)
- ㊫ 乙「二十四銭デス。」甲「大人一枚子供一枚クダサイ。」(男子教材、60頁)  
乙「二十四銭デゴザイマス。」甲「大人一枚子供一枚お願い致シマス。」(女子教材、60頁)

## 3. 5. 3 「女子教材」で接頭辞「お」や接尾辞「さん」が付加されるもの

接頭辞の例として、「先ニ→オ先ニ」2例、「顔付→オ顔」1例(後掲㉔)が現れていた。

また、接尾辞の例として、「子供→子供サン」1例、「ゴ苦労デシタ→ゴ苦労サンデシタ」1例が見られた。例を見てみよう。

- ㊬ 甲「デハ私ガ先ニイキマセウ」乙「オネガヒイタシマス。」(男子教材、89頁)  
甲「デハオ先ニイキマセウ。」乙「お願い致シマス。」(女子教材、89頁)
- ㊭ 甲「水ヲウツテカラ椅子ヲアゲマシタヨ。」乙「ゴ苦労デシタキレイニハキマセウ。」



(男子教材、91頁)

甲「水ヲウツテカラ椅子ヲアゲマシタヨ。」乙「ゴ苦勞サンデシタ。キレイニハキマセウネ。」(女子教材、91頁)

### 3. 5. 4 「女子教材」で丁寧語、敬意のある語になっているもの

⑳の例のように、「男子教材」で「行く」が「女子教材」で「参る」になっているものが7例あった(表記の差を考慮しない場合)。

㉑に挙げたように「サウ→サヤウ」が10例見られた一方で、㉒にあるような「サウ→サウ」も3例認められた。

この他、㉓に挙げたような「イヤ→イ、エ」1例、「ダレ→ドナタ」2例が見られた。例を見てみよう。

㉔ 甲「保正サンハダレデスカ。」乙「野田辰雄サンデス。」(男子教材、72頁)

甲「保正サンハドナタデゴザイマスカ。」乙「野田辰雄サンデゴザイマス。」(女子教材、72頁)

### 3. 6 助詞の有無に関するもの

㉕に挙げた「大キイデスガ→大キイデスワネ」、㉖に挙げた「オ達者デスカ→オ達者デゴザイマセウネ」等は複雑な対応を見せるものである。これに対して「キマス→キマスヨ」「上ゲマス→上ゲマスヨ」「ウミマス→ウミマスヨ」「下サイマス→下サイマスヨ」は合わせて4例あるが、「女子教材」のみ終助詞「ヨ」を付けたものである。「下サイ→下サイネ」「マセウ→マセウネ」も同じ傾向である。これに対して、終助詞「カ」については、㉗に挙げた「ドウシテ→ドウシテデスカ」「デセウ→デセウカ」合わせて2例である一方で、「デスカ→デゴザイマス」「サウデスカ→サヤウデゴザイマス」2例と拮抗している。

㉘ 甲「アナタノ顔付ニヨク似テキマスネ。」乙「サウデスカ。」(男子教材、111頁)

甲「アナタノオ顔ニヨク似テキマスネ。」乙「サヤウデゴザイマス。」(女子教材、111頁)

終助詞のほかに以下のような係助詞の「は」の例もあった。

㉙ 甲「今何時デスカ。」乙「ハイ、九時二十分デス。」(男子教材、66頁)

甲「今ハ何時デゴザイマスカ。」乙「ハイ、九時二十分デゴザイマス。」(女子教材、66頁)

### 3. 7 その他の有無に関するもの

「男子教材」になくて「女子教材」にあるもの5例、「男子教材」にあって「女子教材」にないもの5例、計10例見られた。㉚の「私ガ→の」のような例であり、単に誤脱・衍字の類いなのか、丁寧さと関わるのかについては不明である。

### 3. 8 「男子教材」と「女子教材」で語が変わるもの(丁寧さは不明)

「ワタクシ→ウチ」「ホントウ→ホント」「アリガタウゴザイマシタ→アリガタウゴザイマス」「ウミマシタ→ウミマス」「イキマセウ→行ツテ来マセウ」「ヨク→又」「使フ金→予算」「相談→協議」「四百米→一軒」のような異なった表現のものがある。

男女や年齢の差からか、「兄弟→姉妹」「オクサン→旦那サン」「父ト母ト弟ト妹ト私→主人ト長男ト長女ト次男ト私」「家内→ウチノ妹」のような例も見られる。

呼び方も「男子教材」と「女子教材」では以下のように異なっている。

「川上君→トモミサン」「田中君→トモミサン」「時雄君→月枝サン」

「山崎サン→八重子サン」「山田サン→八重子サン」

「田中サン→マリ子サン」「鈴木サン→玲子サン」「大野サン→トミコサン」

### 3. 9 「男子教材」と「女子教材」で表記が異なるが発音は同じであるもの

「男子教材」において仮名表記であるものが、「女子教材」で漢字表記となっている例が55例。「男子教材」において漢字表記であるものが、「女子教材」で仮名表記となっている例が12例見られた。特に初めの方の「第二学期」では、前者19例、後者1例と際立っている。

その他の例として仮名の繰り返し記号に関するもの2例、「体身→身体」1例、「ノ→の」1例の計4例が見られた。

## 4 まとめと今後の課題

以上、完全に同じ文脈で比較対照できるという特徴を持った資料である『教授細目』の「男子教材」とこれに対応する「女子教材」を詳細に見てきた。「男子教材」に比べ「女子教材」の方がより丁寧な表現を用いていることも、豊富な用例を示したので、明確にすることができた。

「男子教材」→「女子教材」という示し方を用いて、「女子教材」が「男子教材」よりも丁寧な表現を用いている具体的な項目を示すと(1)から(9)のようになる。

- (1) 形容詞丁寧表現に関わるものには、「チカイ→チカウゴザイマス」、「寒クナイ→寒ウゴザイマセン」、「トホイデス→トホウゴザイマス」、「オソイデス→オソイデス」が見られる。内地の国定読本等では許容されず、戦後になってようやく国語教育としても許容されることになった「トホイデス」のような「デス」を使う丁寧表現は、台湾では、「オソイデス→オソイデス」のように男女ともに見られる。ただ、用例数は「男子教材」の方が多く、「女子教材」では「チカウゴザイマス」のようなより規範的で丁寧度の高い表現を多く用いている。
- (2) 「男子教材」に形容詞丁寧表現に関わるもの以外の「デス」が現れた例は205例である。そのうち、「女子教材」が「デゴザイマス」であるものが196例、「デゴザイマセウ」であるもの1例、同じく「デス」であるもの8例であった。
- (3) 「男子教材」に「アリマス」が現れた例が47例である。そのうち「女子教材」が「ゴザイマス」であるもの39例、「居ラレマス」であるもの1例、同じく「アリマス」であるもの7例であった。
- (4) 「男子教材」での「キマス」が「女子教材」で「ゴザイマス」となっている例が2例見られた。「男子教材」「女子教材」とともに同じ「キマス」であるものは23例見られた。「キマス」は、「デス」や「アリマス」に比べ、「男子教材」「女子教材」とともに同じである割合が高い。

- (5) 「女子教材」により高い丁寧さが認められるもののうち、「男子教材」は尊敬語ではないが「女子教材」で尊敬語が使われるものには以下のような例が見られた。

「行キマスカ→イラツシヤイマスカ」、「行キマシタカ→イラツシヤイマシタカ」、「イヒマシタ→オツシヤイマシタ」、「オハナシシテ→オツシヤツテ」、「ツカレタ→オツキニナツタ」、「カヘリマスカ→オカヘリニナリマスカ」、「入レマシタカ→入レラレマシタカ」

- (6) 「女子教材」により高い丁寧さが認められるもののうち、「女子教材」がより丁寧な別の表現等になっているものには以下のような例が見られた。

「ハイ。→ハイ、シヤウチイタシマシタ」、「アリガタウ→アリガタウゴザイマス」、「ナサイ→ナサイマセ」、「イラツシヤイ→イラツシヤイマセ」、「カケナサイ→カケテ下サイ」、「ヤスミマス→休ミマセウ」、「行キマス→行カウト思ヒマス」、「イタシマス→サシテイタダキマス」、「クダサイ→オ願ヒ致シマス」

- (7) 「女子教材」により高い丁寧さが認められるもののうち、「女子教材」で接頭辞「お」や接尾辞「さん」が付加されるものには次のような例が見られた。接頭辞の例として、「先ニ→オ先ニ」、「顔付→オ顔」1例、接尾辞の例として、「子供→子供サン」、「ゴ苦労デシタ→ゴ苦労サンデシタ」が見られた。

- (8) 「女子教材」により高い丁寧さが認められるもののうち、「女子教材」で丁寧語、敬意のある語になっているものには次のような例が見られた。「男子教材」で「行く」という例が「女子教材」で「参る」になっているもの、「サウ→サヤウ」、「イヤ→イ、エ」、「ダレ→ドナタ」である。

- (9) 助詞の有無に関するもののうち、「大キイデスガ→大キイデスワネ」、「オ達者デスカ→オ達者デゴザイマセウネ」等は複雑な対応を見せるものであった。一方「キマス→キマスヨ」「上ゲマス→上ゲマスヨ」「ウミマス→ウミマスヨ」「下サイマス→下サイマスヨ」は合わせて4例あるが、「女子教材」のみ終助詞「ヨ」を付けたものである。「下サイ→下サイネ」「マセウ→マセウネ」も同じ傾向である。これに対して、終助詞「カ」については、「ドウシテ→ドウシテデスカ」「デセウ→デセウカ」合わせて2例である一方で、「デスカ→デゴザイマス」「サウデスカ→サヤウデゴザイマス」2例と拮抗している。

(1)から(9)は丁寧さが関わる例である。この他、丁寧さが関わるか否かを問わず、アリガタウゴザイマシタ→アリガタウゴザイマスのような「男子教材」「女子教材」間の異同も示した。

「女子教材」がより丁寧な表現を用いていることは、当時の規範の一種で、台湾に限らず内地とも関連する。内地においても、男女の会話例を示した資料は多数見かけるが、男女の言葉を同じ文脈で明確に対照できる資料はあまり見られないため、本稿で用いた資料は貴重なものである。本稿の成果は二つである。一つ目は、日本語教育史上の成果で、特に言葉の男女差について台湾で日本語がどのように教えられたかを明らかにした点である。二つ目は、日本語史上の成果で、昭和戦前期における女性語の規範を明確に示せた点にある。

今後の課題は無数にある。

現在、「明治以降昭和20年までの台湾における日本語教科書の研究」の中でも特に昭和戦前期の研究を進めている。これまで、実際に台湾に赴いて入手した資料を調べて判明したことを発表してきた。この中には、先行研究で「未見」とされた資料も含まれている。た

だ、資料の全体像は未だ把握できていない。先行研究で言及されているが未見であるものも多数ある上に、そもそもあるかないか分からないもののがかなりありそうなのである。単行本であれば、とりとめのない言及であるかも知れないのだが、雑誌の未見号は「あるはずなのにな」と言える。たとえば、『国光』という雑誌は、創刊号と第29号から第94号（終刊号）までは入手し分析できたが、第2号から第28号まではまだ探し当てていない（園田 2020）。台湾の日本語教育に関する歴史を考えると、戦後焚書の憂き目に遭った資料もあるであろうし、図書館の書庫や民家の倉庫にひっそりと眠っている資料もまだまだありそうである。今後は、発見できた資料の分析を深めるとともに、未発見の資料の発掘に全力を尽くしたいと思っている。

### 【参考文献】

- 揚妻 祐樹（2012）「台湾教育会編『國光』について」『藤女子大学国文学雑誌』87
- 佐竹久仁子（2012）「日本語の攻防一言語変種〈女性語〉の形成と衰退」『日本語学』31－7
- 園田 博文（2012）「明治28年刊台湾語会話書の植物語彙に関する一考察—『台湾語集』『台湾言語集』『台湾会話編』『台湾語』を中心に—」『近代語研究』（武蔵野書院）16
- 園田 博文（2019a）『中国語会話書から見た近代日本語の研究』関西学院大学出版会
- 園田 博文（2019b）「昭和初期台湾における日本語教育月刊誌『薫風』『黎明』『国光』について—青年劇と地震の記事を中心に—」『近代語研究』（武蔵野書院）21
- 園田 博文（2020）「台湾の日本語教育月刊誌『国光』（昭和7年創刊）における投稿文の資料性—誤用と誤文訂正を中心に—」『論究日本近代語』（勉誠出版）1（印刷中）
- 園田 博文（近刊）「洒落本の語彙（男性のことばと女性のことば）」『シリーズ〈日本語の語彙〉4 近世の語彙—身分階層の時代—』朝倉書店
- 陳 虹炆（2006）「日本統治下台湾における国語講習所用国語教科書の研究—台湾教育会の『新国語教本』に着目して—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』54－2
- 陳 虹炆（2019）『日本統治下の教科書と台湾の子どもたち』風響社
- 藤森 智子（2016）『日本統治下台湾の「国語」普及運動—国語講習所の成立とその影響—』慶應義塾大学出版会
- 森山由紀子（2019）「言葉の性差の背景とゆくえ」『シリーズ〈日本語の語彙〉7 現代の語彙—男女平等の時代—』朝倉書店

### 【謝辞】

本研究は、JSPS科研費、基盤研究（C）「明治以降昭和20年までの台湾語会話書および台湾における日本語教科書の研究」（JP18K00707）（研究代表者：園田博文）の助成を受けたものです。資料調査の際は、国立台湾図書館（新北市中和区）の方々にお世話になりました。記して謝意を表する次第です。

## Summary

**Female Speech as Pre-War Norms: Male and Female Educational  
Materials in a Japanese Speaking / Reading Instruction Manual for  
Japanese-Language Learning Centers in Chaozhou Township,  
Published in Taiwan in Showa 15 (1940)**

**SONODA Hirofumi**

In this paper I compared corresponding educational materials for males and females in the same context, finding that the female educational materials use more polite expressions, such as polite adjective expressions. This was a Japanese linguistic norm of the time, and while it pertained not only to Taiwan but also to mainland Japan, there are no materials from mainland Japan allowing us to clearly contrast male and female speech. This paper has two significant findings. The first relates to research on the history of Japanese language education by clarifying how the Japanese language was taught in Taiwan with regard to male and female speech differences. The second relates to the history of the Japanese language, as it shows the norms of female speech during the pre-war Showa period in a clear form.